

出題分析		
試験時間 75 分	配点 150 点	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>例年通り、大問 3 題で構成された。〔Ⅰ〕3 世紀・5 世紀・6 世紀・8 世紀の東アジアの地図をもとに古代の東アジア諸国との外交，〔Ⅱ〕室町時代の政治・文化，〔Ⅲ〕近世～近現代の文化に関して出題された。〔Ⅰ〕では 4 つの地図が示され，各時期について設問が用意された。設問数は記述問題，選択問題ともに減少した。</p> <p>全体的に標準レベルの知識で対応できる問題で構成されていた。漢字のミスや設問文の見落としによる失点を避け，高得点を目指したい。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
〔Ⅰ〕	3 世紀・5 世紀・6 世紀・8 世紀の東アジアの地図をもとに古代の東アジア諸国との外交	地図に戸惑ったかもしれないが，地名の記述にさほど難解なものは見当たらないので，落ち着いて解答したい。選択問題に一部迷うものもあったが，手堅く解答して高得点を狙いたい。【設問イ・カ】日本史の知識だけでは難しかった。【設問ケ】やや迷うが，選択肢の 2 と 3 は弥生時代の記述であり，選択肢 4 が古墳時代初期の記述であることから，消去法で解答可能か。【設問サ】倭が宋（南朝）に朝貢するルートであることを考える。【設問ス】推古天皇は飛鳥の豊浦宮で即位した。【設問タ】やや難。消去法で考えたい。	やや難
〔Ⅱ〕	室町時代の政治・文化	記述問題も選択問題も基本的なものが多く，満点も可能な大問であった。それだけに漢字表記のミスは痛手になる。 【設問 a】「如意輪観音像」や「折衷様建築」などヒントも多いが，ほかの寺院がすべて京都にあることから導ける。【設問 c】明徳の乱で討伐されたのは山名氏清。【設問 g】1 と 4 の前後関係がポイントとなるだろう。1：結城合戦は 1440 年，2：上杉禅秀の乱は 1416 年，3：享徳の乱は 1454 年，4：永享の乱は 1438 年の出来事。【設問エ】やや想起しにくい，「枯山水の代表例」から解答したい。	標準

設問別講評			
〔Ⅲ〕	近世～近現代の文化	<p>(1)十川信介編『藤村文明論集』(岩波文庫)より、19世紀の文化、(2)生方敏郎『明治大正見聞史』(中公文庫)より、明治・大正期の文化、(3)戦後文化について出題された。頻出の文化史対策を怠りなく学習していたであろう同志社大学を志望する受験生であれば、解答しやすい問題構成であった。</p> <p>【設問ア】やや難。空欄後の文から国学を想起したい。【設問ソ】やや細かい知識が問われた。消去法でも解答可能か。【設問タ】やや細かい知識が問われた。1:民俗学者, 2:法社会学者, 3:経済史学者。【設問ツ】2:田河水泡, 3:横山光輝, 4:水木しげる。【設問ト】やや難。正式名称といわれると迷ったかもしれない。</p>	標準

合格のための学習法

大半は教科書の内容に準じた標準的な設問で構成されている。特定のテーマや時代に偏ることなく学習を進めたい。同志社大学入試日本史では、細かい知識を要求する設問も散見されるので、用語集も活用して語彙や知識を増やしておこう。図説資料集は、文化史の学習で活用するのは当然だが、地図が多く掲載されており、日本国内の出来事と連動させて諸外国の動向について押さえるときにも有効であるため、歴史総合の対策として積極的に活用してほしい。また、年度・学部に関係なく可能な限り過去問演習をこなし、教科書や用語集とは異なる切り口で出題される問題や史料問題にも慣れておきたい。